小特集にあたって

京都大学大学文書館研究紀要編集委員会

本『京都大学大学文書館研究紀要』第21号においては、小特集として『京都大学百二十五年史』を取りあげることにした。

1897年に創立された京都大学では、2022年に創立百二十五周年を迎えて各種の記念事業が実施されたが、そのなかに『京都大学百二十五年史』（以下、「百二十五年史」と表記。）の刊行が含まれていた。百二十五年史は通史編および資料編からなり、前者は紙媒体で、後者は電子版で2022年６月に刊行された。

百二十五年史の編集主体は京都大学百二十五年史編集委員会であったが、その編集にあたっては京都大学大学文書館所蔵の資料が全面的に利用された。また言うまでもなく百二十五年史は創立以来の京都大学の歴史を記述対象としており、その意味で「京都大学および高等教育の歴史、アーカイヴズ論等に関する論文、研究ノート、資料紹介、書評等」（『京都大学大学文書館研究紀要』編集要項）を掲載する本紀要で取りあげるのにふさわしい書であろう。

小特集では、まず百二十五年史を編集・刊行した側から２本の論考を掲載した。１本目として百二十五年史編集室長であり、百二十五年史通史編を執筆した西山が百二十五年史全体の編集体制、編集方針および通史編執筆にあたって目指したものをまとめ、２本目として百二十五年史編集室の川口朋子助教が資料編の制作過程を記述した。そしてこれらに加えて、名古屋大学大学院教育発達科学研究科の吉川卓治教授、大東文化大学東洋研究所の浅沼薫奈特任准教授に百二十五年史の書評をご執筆いただいた。お二人とも高等教育史の研究者であるだけでなく大学沿革史の編集にも豊富なご経験をお持ちであり、そうした立場から種々の鋭いご指摘を頂戴することができた。

京都大学の歴史および大学沿革史の現状や今後に関心のある読者の方々に、この小特集が少しでもお役に立てば幸いである。

（文責　　京都大学大学文書館教授　西山伸）